

わたしの  
好きなこと

# レーシングカート日本チャンピオン 夢は“F1レーサー”



RMC2024世界大会出場記念のパネル



WITH Racing Club+グローバルに所属する苅飛くんと、監督兼総合コーチを務めている父 和裕さん(写真右)。父は若い頃からスポーツに関して天才肌で、スノーボードの元日本チャンピオン。その他にスノーボードやモーターサイクル、ボクシングにも親しんできました。父曰く「苅飛は天才ではなく努力派」。



トロフィーと世界大会出場チケットを手を持つ苅飛くん。そんな彼も初めてのレースでは歯がガタガタと震えたそう。



出典:japankart.jp Copyright@EASTAGE Co.,Ltd

フェスティカサーキット瑞浪で行われた瑞浪RMC第5戦の結果などは、JAPAN KART webでも大きく報じられました。また、レースの長時間映像はYouTubeでも公開されています。

レーシングカートは、パイプフレーム(シャーシ)に剥き出しのエンジン、タイヤ、バケットシートなどを取りつけたシンプルな構造の競技用車両。一般的に排気量125ccの2ストローク・水冷エンジンを使用し、レーシングドライバの登竜門として位置づけられ、F1ドライバードライバーとして世界的に著名なセナ、シューマッハ、アロンソなども、もれなくカート出身者です。その国内外の大会で有名な『ロータックス・マックス・



苅飛くんと  
苅飛 苅飛くん

- 旭川市立忠和小学校5年
- 小2からレーシングカートに乗り始める。●2024年、ロータックス・マックス・チャレンジ日本選手権大会においてマイクロ・マックスでチャンピオンに輝く。同年、初めて世界大会への出場を果たした。

チャレンジ(通称RMC)選手権』のマイクロ・マックス(参加年齢・小1〜中1)クラスで2024年の日本チャンピオン(フェスティカサーキット瑞浪RMCシリーズ第5戦で決定)に輝いたのが、旭川市の小学5年生(本年3月末現在)の苅飛くんです。

**カートを始めて3年で日本に**

苅飛くんがカートを始めたのは小学2年生の秋。きっかけは父親の苅飛和裕さんが遊びに連れて行った愛別町の『カートランドARK』でスピードと爽快感に目覚めてしまい、レースにも出場するようになりました。しかし、初出場(2021年11月)した岐阜県の瑞浪RMCでのレースは周回遅れはまぬがれたものの最下位。それが悔しくて本気で練習を始め、2022・23年と徐々に順位を上げていき、3年目にして遂に昨シ

ーズン日本一の座につきました。現在は南幌リバーサイドカートランドで行われる北海道シリーズRMC南幌と瑞浪RMCを2拠点に練習とレースに参加し、父と子の二人三脚で、さらなる高みへと登りつめようとしています。

**2階級上げ、ジュニア・マックスへ**

和裕さん「世界大会ではクジ引きで得たマシンの調子が必ずしもベストとは言えず、残念ながら36人中25位という不本意な成績で終わってしまいました。それでも本人にとっては世界の壁を知る良い経験になったと思います。これからどういう人生を歩むのかは本人次第ですが、海外へ留学してもいいですし、世界で通用する人間に育ってほし

いと思い、3歳から英語教室にも通わせてきました。」

苅飛くん「マイクロ・マックスの次は普通はミニ・マックスなのですが、それを一つ飛ばしてジュニア・マックス(小6〜17歳まで)のクラスで今年から挑戦していきます。レースを通してライバルや外国人選手の友だちもできたし、学校のクラスのみならず、学校外のクラスでも、今後も一生懸命に頑張りたいと思います。」

和裕さん「ジュニアはスピードも115km/h(体感速度はその2倍)くらいまで上がり、相当な筋力・体力も必要になってきますが、できる限り成長をサポートし続けていきます。」

※背景に薄く見える写真は鈴鹿サーキット。今シーズンからRMCで苅飛くんも鈴鹿を走ります。